

	成果	課題と方向性
市民文化政策	<p>◎Sakataアートマルシェでは、文化活動をしている市民、まちづくりに携わる市民・学生、障がい者施設の職員と共に考え協働しながら、共生社会を目指した。</p> <p>ワークショップ・クラシックコンサート・酒田舞娘の演舞・朗読劇など様々なイベントを実施し、幅広い世代の市民が気軽に文化芸術にふれる機会を提供した。</p> <p>企画展「いろいろな展」においては、専門家を向かえワークショップを事前に開催することにより障がいのある方々の作品制作・出展内容を発展させることができた。また、作品の出展の場・鑑賞の場を設けることで、障がいのある方々の社会参加の機会を提供することが出来た。</p>	<p>【課題1】 文化芸術にふれる機会の享受に地域格差がある。</p> <p>【方向性】 地域格差を是正し、市民が平等・公平に文化芸術に親しむ機会を得ることができるような事業の改善を図る必要がある。例としては、特別支援学校を含めた市内全小学校に向けたアウトリーチなど、参加型事業の充実を図ると共に、松山地区、平田地区、八幡地区など、各地区の支所やコミュニティセンター等と連携し、幅広い年代を対象にした事業の実施を目指す。</p> <p>【課題2】 基本的施策にある「誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備」に関する事業内容に広がりがなく、成果には至っていない。</p> <p>【方向性】 多角的に継続して市民に広く文化芸術の魅力を発信できるようアウトリーチ、ワークショップ、リサイクル等を取り混ぜることで、点ではなく、線から面へと繋がり広がる事業内容としていく。</p>
	<p>◎山形交響楽団による楽器クリニック、工藤俊幸氏による合唱指導では、地域の若い世代に向けてプロのアーティストの感性に直にふれる貴重な機会を提供することができた。</p>	<p>【課題3】 社会包摂については、障がい者に重点を置いた事業となっている。</p> <p>【方向性】 社会包摂を方針とした事業の対象、手法についても今後十分な検討を重ね、障がいの有無、経済・家庭環境の差異に関わらず、幅広い市民が参加できるような展開を目指す必要がある。</p>
	<p>◎ダンスとピアノのコラボレーション型アウトリーチを実施することにより、文化芸術に触れる機会の少ない子どもたちにアート体験の楽しさを知る機会を提供することができた。</p>	<p>【課題4】 計画に基づいた事業を実施していくにあたり、社会教育文化課職員の専門性が乏しく、効果的な実施に苦慮している。</p>
	<p>◎アートスタート事業では、0歳から参加できる機会を提供することで家族で文化芸術活動を行う動機付けとなった。</p> <p>◎クリエイティブコーディネーターの配置により、文化芸術の視点を活かしたより効果的なまちづくり・人材育成にむけた事業展開を図ることができるようになった。</p>	

	成果	課題
市民文化政策		<p>【方向性】 クリエイティブコーディネーターからの専門的指導のもと、より戦略的・効果的に計画し、継続して事業を実施していくとともに、専門性を有するさかた文化財団の学芸員と意見交換の場を設けていく。</p> <p>【課題5】 市民に質の高い文化芸術を提供のために、サポーターの協力が不可欠であるが、その育成に苦慮している。</p> <p>【方向性】 外部講師による研修会を複数回実施することで、責任と誇りを持ってホールスタッフ業務に従事できる人材の育成を図る。サポーター登録を継続してもらえよう、全国のホールのレセプション制度を参考にしつつ、その待遇等含め制度の見直しを検討していく。</p>
	都市文化政策	<p>◎Sakataアートマルシェにおいて、飯森山地区の文化施設の活用を図った。</p> <p>日頃、出羽遊心館や酒田市美術館に足を運ぶ機会の少ない市民が、それらの施設を訪れる動機付けにつながった。</p> <p>◎オンラインイベント庄内弁を「おもしろく」学ぼう！ では、様々な分野において庄内弁について研究・発信している方々に参加協力をいただくことで、庄内弁の魅力を広める場を創出できた。</p> <p>◎社会教育系の生涯学習推進講座開催事業において、伝統的な食文化の継承に関する事業を実施し、本市の食文化を市民が再認識する機会となった。</p> <p>◎国の史跡である「旧燈屋」を会場にして、庄内の若手アーティスト6人によるアート展を文化財係が企画し、文化財とアートという新しい視点での展開があった。</p>